



# 明倫の里 城北 ともしび

発行・城北コミュニティ 丸亀市御供所町一丁目5番20号  
城北コミュニティセンター「明倫」☎25-2141

## 城北地区人口

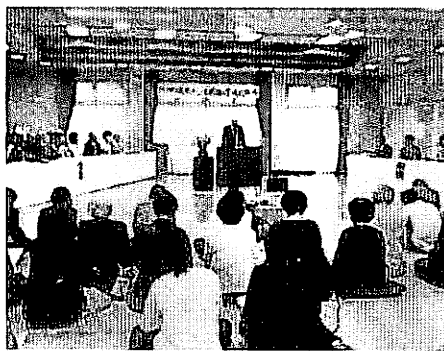
世帯数 2,946 (-1)  
人口 6,679人 (-9)  
男 3,074人 (+2)  
女 3,605人 (-11)

(6月1日現在)

(カッコ内は5月1日比)

## 平成21年度 城北コミュニティ総会

城北コミュニティ「明倫の里 城北」の平成二十一年度総会が五月十七日、城北コミュニティセンターで、代議員八十二名が出席して開催されました。



自主防災、新型インフルエンザの対応等の協力依頼がありました。来賓は小野市議をはじめ生活環境部、社会福祉協議会の各代表の皆様でした。平成二十年度事業報告、決算報告、監査報告が承認され続けて二十一年度事業計画案と予算案を審議、原案通り異議なく成立し、審議は終わりました。

役員の交代があり、体育部長に新しく佐野洋氏が就任することになりました。主な事業計画は次の通りです。

細谷会長から、市の「まちづくり計画」へ、地域としての組織、運営について説明があり、スローガンを掲げ五年を目標に皆さんの協力をお願いするとのお話がありました。

井市長から

(単位:円)

平成21年度収支予算	
収入部	
費目	本年度予算額
前期繰入金	1,354,606
市助成金	1,670,000
市社協補助金	368,100
地区社協会費	708,000
雑収入等	200,594
合計	4,301,300
支出部	
費目	本年度予算額
I 事業費	3,643,500
1 総務部	1,490,000
2 広報部	351,500
3 文化部	153,000
4 福祉部	629,000
5 環境部	525,000
6 保健部	200,000
7 体育部	295,000
II 運営費	455,000
III 予備費	202,800
合計	4,301,300

〔総務部〕  
全体研修会(七月)、第十回ほくほくふれあいまつり(十月)、第十回城北明倫まつり

### 〔広報部〕

「ともしび」年四回発行、城北ホームページ運営、中讃ケーブール・データ送入

### 〔文化部〕

地域いきいき講座、人権標語募集、人権広報紙「こころ」年二回発行

### 〔福祉部〕

花鉢プレゼント(七十歳以上独居)、八十歳在宅高齢者訪問、福祉ママチャリテイザー

### 〔環境部〕

親子ハゼ釣り大会(十一月)、清水川、土器川の清掃

### 〔保健部〕

すすくすくクラブ(年間十二回)、町別健康相談、健康教育(六月・十月・二十二年一月・三月)

### 〔体育部〕

飯野山登山、早朝ウォーキング(七・八・九月)、ポリング大会(十一月)、家族ハイキング(二十二年四月)

皆さん熱心に聞き入り、終始和やかに閉会しました。

平成21年度城北コミュニティ役員	
会長	細谷 達則(自治会)
副会長	鈴木 巖(自治会)
同	鈴木 勝榮(婦人会)
総務部会長	馬瀬 實(自治会)
広報部会長	大川 潮子(自治会)
文化部会長	健太郎(民児協)
福祉部会長	細谷 嬌(自治会)
環境部会長	近藤 照司(自治会)
保健部会長	中野 実千代(母子愛育班)
体育部会長	佐野 洋(自治会)
事務局	長直井 一之(体育協会)
同	横山 俊男(自治会)
同	津治 義秀(老人会)
同	北本 多壽子(交通安全協会)
同	福岡 俊子(自治会)
同	香川 宏(コミュニティセンター)

## 城北まちづくり 計画に着手 策定委員を公募

城北地区の将来像を描く——城北コミュニティでは、城北まちづくり計画の策定作業を進めることになりました。六月十日に総務・広報・文化・福祉・環境・保健・体育の部会長を中心に策定作業の進め方などについて協議しました。策定作業の第一段階として委員会を設置しますが、委員会のメンバー三人を公募します。希望者は七月十五日(水)までに城北コミュニティセンター(☎二五二一四一)へ申し込んでください。選考の上、決めさせていただきます。

総会の後、防災講演会(2面に詳報)が開かれました。

コミュニティの総会に引き続いて防災をテーマにした講演会があり、講師として招いた愛媛大学防災情報センターの二神透・准教授（地域防災工学）が「コミュニティ活動と減災」をテーマとして、話をされました。

### 講演内容（要旨）



二神透准教授

防災は地域固有の問題であり、場所によって想定できる災害は違ってきます。城北地区は海が近いので、高潮、津波が予想され、土器川は氾濫の危険もあります。そういう意味で自分の地域をよく知ることが重要になります。

この地域を見ますと、木造住宅が密集しており、一番危険なのは地震発生時に起きる火災ではないでしょうか。自主防災組織を結成して地域は自分たちで守っていくとの全国的な流れを受け、一人ひとりが防災の知識を身に付けることが重要で、訓練や講習に参加、どんな役割を担っているか認識することも大事です。四国では三十年以内に南海

地震が発生する確率は五〇％といわれ、震度分布図では、香川全体で震度六強、城北付近は五強で、丸亀市内は三七五棟の建物が全壊、八九一棟が半壊との予測が出ています。自分たちの地域で災害が起きた時、どの程度危険なのか、リスクがあるかを見る必要があります。

次に常緑広葉樹の地震火災への効果についてお話しします。ツバキやサザンカ、サンゴ樹など葉が一年中落ちなくて厚

## 地域全体で減災を！

### 二神透・愛媛大准教授が講演

えるようにしておくことが重要になります。

もう一つ大事なのは自主防災組織の取り組みです。丸亀市の自主防災組織の組織率（平成十六年）は県平均の五五・二％。全国平均の六二・五％を上回る九四・九％だそうです。地震火災を想定した避難訓練の中に、一人で逃げられない人をサポートする要援助者支援の訓練も併せて行つて下さい。

松山では、組織の中で防災

めの樹木なら何でもかまいません。びっしりと植わっているのが理想ですが、阪神淡路大震災の時、一本の木が隣家への延焼を防いだ例もあります。樹木が延焼速度を遅くし、消化や避難がしやすくなる効果があり、地域で植栽を増やすことが非常に有効です。

阪神淡路大震災では、消防車が入れず、水も使えず、初期消火には消火器が一番有効でした。普段から初期消火の重要性を認識し、消火器を使



密集地域を診断

何をするか計画を立てて避難訓練のような次の行動に移す。問題点をチェックした上で、継続的に実践できる仕組みを考えることが大切です。特に求められるのが、せっかくなで作った組織を引っ張っていくリーダーの育成ではないでしょうか。

地震が起きれば火災が発生します。地域のコミュニティが、要援助者らの救出時間を短くできます。「どうやって地域の人たちや自分たちの身を守るのか」。三日に一度でもいいですから、生活の中のいろいろな場面で、地震発生時にどうするべきか考えたり、対処方法を書き出ししたりするだけでも、一人ひとりの防災意識を高めることに繋がるのではないのでしょうか。

## ことしの「ふれあいまつり」

今年で第十三回となります。城北コミュニティ主催の「ほくほくふれあいまつり」は十月十一日（日）城北小学校で開きます。今後、実行委員会で実施内容などを協議して、幅広く楽しんでもらえる催事を目指します。

## 連合自治会を結成

### 御供所地区の九自治会

御供所町地区の九自治会を一体化した御供所町地区連合自治会が五月二十七日結成されました。会長に馬瀬實・城胡自治会長を選出しました。

御供所町地区自治会員は約三百二十世帯。同連合自治会は「各町の自治会相互の連絡を緊密にし、各種事業の円滑化を図る」ことを主な目的にしています。

## ▼お礼

今年度は、日赤社資募集に百五十一万五千円集まりました。六月三日に、日赤丸亀支部へ納入いたしました。自治会並びに、婦人会の方々に厚くお礼申し上げます。

（城北婦人会長）

## 第60回お城まつり

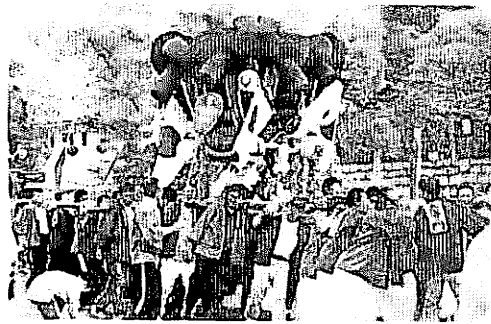


「みんなであつ  
くろう みんな  
のまつり」を合

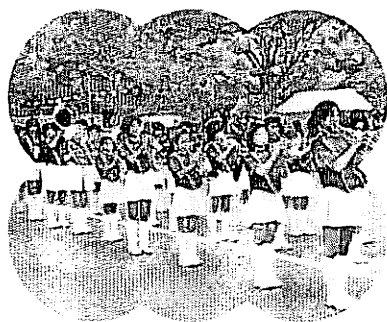
言葉に、丸亀お城まつりは晴天に恵まれて多くの人たちが楽しさを共にしました。

城北小学校はマーチングバンドで「まんてガンガン大行進」に練習の成果を発揮、城北幼稚園の園児もかわいい踊りで沿道の声援を巻き込んで、元氣いっぱいアピールしました。

人々の幸せと地域社会の繁栄を願って高く高くさし上げられた太鼓台、さまざまなパフォーマンスに大きな拍手がありました。



ワッショイ・ワッショイ



天までとどけ(城北小学校)



リズムにのって(城北幼稚園)

### 笑い声につつまれた

#### 第11回地域いきいき講座

五月二十九日に「悪徳商法 きーつけまーせ」と題して、県消費生活センターから派遣された木村斉(金万亭出臈)さん・恵子(金万亭お稽古)さんの夫婦落語による第十一回いきいき講座を開催いたしました。当初の参加申し込み数が少なく心配しましたが、各部会などから声掛けをして

いただき、当日は五十八名の方が受講され文化部としましては大変感謝しております。

お年寄りを狙った悪質な商法や詐欺が多発している昨今、その手口を具体的かつ面白く講師に語って戴き、対応策として、「無理やり契約をされても、八日以内であればクーリング・オフ制度を活用して解約できる」「簡単に儲け話にのらない」「おかしいと思ったら一人で判断せず知人や家族に相談する」などのことを、笑いのうちに学ぶことができました。

高額商品を無理に買わされたり、覚えのない請求書が届いたりするなど困った時は丸亀警察署か中讃県民センター(☎六二一九六〇〇)に相談を!

(文化部会)



第11回地域いきいき講座

## 新一年生を迎えて!

四月十五日十二時五十分、小学校の運動場において、明倫の里城北の細谷会長、丸亀警察より五名、防犯パトロール隊員五十名と、新入生を含めた小学生とが対面式を行いました。



いつもパトロールありがとう

その後、小学生の代表から日頃、自分たちをさまざまな危険から守ってくれている防犯パトロール隊員に感謝の意を込めたお礼の言葉がありました。かわいらしい新入生との顔つきも出て来て、私たちパトロール隊員も、今年も頑張る子どもたちを守っていきましょうという気持ちを新たにしました。

(環境部会)

## 子ども会新役員決定

六月六日城北地区子ども会連絡協議会が開催され平成二十一年度役員が決まりました。

(敬称略)

会長 川野公章(安達団地子ども会) 副会長 三枝浩基(風袋町子ども会) 書記 大矢由美子(北平山町子ども会) 会計 新野秀樹(御供所町子ども会) 会計監査 直井茂貴(土居町子ども会)

### いっしょに歩きましょう!

城北小学校を起点として、午前七時に出発し、ほぼ一時間程度で帰着できるウォーキングを左記のとおり計画しました。早起きの方、運動不足の方、散歩がてらに歩いてみませんか。新しい発見に出会えるかも。

◆実施日 七月五日(日)  
行き先 玉積神社、蓬萊町  
周遊

◆実施日 八月二日(日)  
行き先 土器町東周遊

◆実施日 九月六日(日)  
行き先 城東町、山北八幡宮方面周遊  
(体育部会)

## 城北幼稚園長 細川幸穂

四月の異動で飯山南幼稚園から赴任した私を迎えてくれたのは「子どもたちのために、力を合わせていこうな」という保護者の温かい言葉でした。このような幼稚園で、子どもたちとかわることができるととても嬉しく思いました。

コミュニティ「明倫」の総会に参加させていただき、城北地域の協力度体制の強さを知りました。そして、子ども

たちが地域の宝として大切に育てられていることを感じ、温かさの源はここだと確信しました。

城北幼稚園では、今年度「心かよわせ、育ち合う子ども」をテーマに教育を進めていくこととしました。

### 学園の現場から

た。人とのか

「自分が好き」そして、友だちと一緒に遊ぶって、楽しいと感じながら、日々を送って欲しいと思います。

年長児が菓子店の協力を得

考えてみましょう。

市や国、県の出先、警察などには各種の相談窓口が設けられています。乳幼児の悩みに福祉司が答える「すくすく

て、子どもの日の行事としてお菓子作りの見学をしました。そのお菓子をいただきながら、友だちと楽しい時間を共有できました。

また、猪熊現代美術館見学、

手話教室等、感性を揺さぶる

実体験を積み重ね、成長し

て欲しいと願っています。

子どもたちは、保護者や地域の方といろいろな人々の中で、育てられ成長していきま

す。今後ともご支援をお願いいたします。

にした虐待や不登校、問題行動などに関する相談は県の西部子どもセンターが担当してくれます。

このほか、配偶者からの暴

# 「なんなん知るとんばい」

日頃、子育てのことや介護のこと、家庭内のいろいろな問題で悩んだり、困ったりしたことが、これまで少なからずあったと思います。

知り合いから相談を受け、どうすればいいのか戸惑ったことを経験したこともありません。

そんな身近な問題を取り上げるコーナーを新設いたしました。名づけて「なんなん知るとんばい」です。

今回は子どもたちの問題を

「相談の窓口が分からない」など、一人で抱えこまないで下さい。

次号からは地域のみなが関心のある事例を取りあげていきたいと思

います。

力(DV)や医療、高齢者介護などの相談窓口もあります。

地域には民生委員・児童委員がおり、社会福祉協議会でも支援活動を行っています。

多くの人たちがたくさん

進んだ現代だからこそ、地域で支えあうことが求められています。「こんなことが知りたい」

悩みや不安を抱いたまま生活をしていきます。困ったことがあっても、どうすればいいのか分からないこともあるはず。核家族化が

あるはず

## 地名の由来

### 米屋町

京極氏入封以後に形成された町で、通町と隣接する商業地として発展しました。

米屋町の由来は、米屋が多かったことで名がついたといわれています。

幕末には藩の重要産業となった総糸生産の中心地の一つとなり、明治三二年市制実施にともなうて丸亀市米屋町となりました。

### あとがき

「おはよう」と元気にあいさつを交す子どもたち。学校で何を遊ぼうかと目を輝かせている子。うつむきかげんで歩く子。

小さな後姿を見送りながら、心寂しい子どもたちがいないよう、守ってあげたいの思

いになる。

子どもは地域の大切な宝。ケンカをしたり、笑ったり元気に遊ぶ子どもたちの声が聞こえるたび、社会の偏見、いじめがなくなり共に学べる住みよい校区になればと願っている。

(竹田)

